

職業としての「林業」認知度向上事業について

1 はじめに

令和7年8月5日から6日にかけて、釜石地方林業振興協議会主催による「職業としての『林業』認知度向上事業」を開催しました。

本事業は、林業の担い手の確保に向け、職業としての「林業」の認知度向上を目的に、学生を対象に森林・林業講座を開催し、富士大学から7名の学生に参加いただきました。

2 事業の概要

初日は、釜石地方森林組合の高橋参事をコーディネーターに、スギの葉に語りかける自己紹介、フリスビーやロープの輪を使った意思疎通のオリエンテーションを実施し、参加者と受入れ側の交流を深めることから始めました。

続いて、岩手県の森林・林業の概要を県から説明、昼食を挟み、鶴住居スタジアムを見学し、震災時の状況説明、復興に係る森林組合の対応や震災後の防災対策への対応等の説明を行い、計測機器体験では、光波測量機器、ツールパルス、RTK-GNSSなどの技術に触れてもらい、その中でドローン体験が好評を博しました。

仕事紹介では、釜石地方森林組合、釜石市、大槌町及び岩手県に係る業務内容や給与体系、職場環境等を説明し、就職活動に関する質問・意見交換では、各団体の若手職員と仕事の選択理由や業務後の過ごし方などについても意見交換を行いました。

2日目は、釜石市及び大槌町の担当者による「森林経営管理制度の説明」と「制度を活用した間伐施工地の見学」を行い、併せて県から森林の調査方法や保安林、治山ダムの役割について説明しました。

続いて、特定非営利活動法人吉里吉里国を訪問し、松永理事長より震災復興や地域課題への取り組みについて説明を受け、薪割り体験を通じて地域資源の活用を体感してもらいました。

小久保地区の治山工事現場の見学、大槌町文化交流センター「おしゃっち」の見学を経て、最後に、森林組合作業員の指導のもと、チェーンソーによる造材・伐倒体験、重機（グラブプル）の操作体験により、林業の現場作業を体験してもらいました。

3 課題と今後の取り組み

参加者には、職業としての林業への理解と関心を深めていただだけ、アンケートでは就職先として考えたい旨の回答もありました。

一方で、開催の周知方法の改善点、事前説明が必要などの課題点も把握されたことから、今後も関係団体の意見、要望を伺いながら、より効果的な実施内容を検討していきます。



光波測量機器体験



簡易伐倒器を用いた伐倒体験